

# オープンソースで IT アプローチをモダナイズする 5 つの方法

中堅組織 (ミッドマーケット) が商業的サポート付きのオープンソース・ソフトウェアを採用することで、どんなメリットを得られるか

オープンソース・ソフトウェアは、クラウド・コンピューティング、自動化、DevOps、人工知能、ビッグデータおよび分析といった現在のイノベーションの多くを支えています。実際、IT リーダーの 95% は、オープンソースがインフラストラクチャ・ソフトウェア戦略にとって重要であると述べています。<sup>1</sup> なぜ商業的サポート付きのオープンソース・ソフトウェアを使用して IT をモダナイズすべきなのか、その 5 つの理由を以下に説明します。

## 1 セキュリティの強化とコンプライアンスリスクの低下

中堅企業はサイバーセキュリティを最大の懸念事項として挙げています。<sup>2</sup> データ損失のリスクとプライバシー法の違反に対する厳しい罰則を考えれば、この結果は驚くべきものではありません。プロプライエタリー・ソフトウェアからオープンソースにアプローチを移行して、次のことを実現しましょう。

- ▶ セキュリティ体制を強化する。オープンソースのように、ソースコードを見る開発者が多ければ多いほど、エラーや脆弱性の早期発見、迅速な修正を行える可能性が高まります。
- ▶ ソフトウェア開発の従来のウォーターフォールモデルを、よりモダンな DevSecOps アプローチに置き換える。これによって、セキュリティをソフトウェアの設計・デザイン段階から盛り込めるようにし、より安全でセキュアなソフトウェアを開発できるようにする。<sup>3</sup>
- ▶ ハイブリッドクラウド戦略を導入して、一部の重要なアプリケーションとデータは、より安全なオンプレミス環境に保持できるようにする
- ▶ 運用する場所にインスタンスがない場合にパブリッククラウド・プロバイダーを切り替えることができるオープンクラウドアプローチを使用して、コンプライアンスおよびデータ主権 (data sovereignty) のリスクを回避する。

## 2 クラウド利用率の向上

パブリッククラウドやプライベートクラウドの登場は、ITのあり方を大きく変革しました。これからは、オープンソフトウェアを基盤にしたクラウド環境を活用することで、さらに効率的なソフトウェア/アプリ開発が可能になります。

- ▶ オープンプラットフォームを標準採用する。これにより、複数のクラウド環境 (パブリック、プライベートクラウド) をまたがったアプリケーション管理に取られる、時間やITリソースを削減する。
- ▶ オープンなコンテナ・プラットフォームを使用する。これにより、クラウド管理の柔軟性と効率性を高め、複数のクラウド (ハイブリッド、オンプレミスなど) をまたがるソフトウェア/アプリ開発を容易にできるようにする。
- ▶ ハイブリッドクラウド・アプローチを導入して、相互運用性、アプリケーションの可搬性、コスト削減を実現する。
- ▶ 開発チームと IT 運用チームを共通のプラットフォームに統合することで DevOps を向上する。
- ▶ オープンなコンテナ・プラットフォームで、既存の IT 開発環境と最先端のクラウドネイティブな開発環境をブリッジする。
- ▶ クラウド全体で単一の、オープンなオーケストレーション・プラットフォームを使用して、開発と運用の労力を大幅に削減する。

## 3 大規模なイノベーションを加速させる

ビジネスは技術的イノベーションで大きく成長します。しかし、柔軟性に欠けるプロプライエタリーなアーキテクチャの存在や、最先端の開発者採用の難しさにより、そのイノベーションが困難になる可能性があります。オープンソース・ソフトウェアを標準採用することで、ビジネスをより柔軟に成長させましょう。また、より多くのイノベーションを活用できるようにしましょう。

- ▶ 活発なディスカッションが繰り返されている、グローバル・オープンソース・コミュニティから、継続的にイノベーションを享受する。

<sup>1</sup> 「The State of Enterprise Open Source: A Red Hat Report」、Red Hat が Illuminas に委託して実施、2020 年。 [red.ht/enterprise](https://red.ht/enterprise)

<sup>2</sup> National Center for the Middle Market, 「Rediscover Market Dynamics—Q3 2019 Outlook」、Chubb、2019 年 10 月。

<sup>3</sup> Aaron Rinehart、その他、「What is DevSecOps?」、Opensource.com、2019 年 1 月。

- ▶ さまざまな才能が集まるオープンソース・コミュニティを活用して社内リソースを強化し、競争力と応答性を高める。
- ▶ 単一のオープン・プラットフォームを導入する。これにより、複数のハイブリッド・インフラストラクチャにまたがってアプリケーションを実行する際の、複雑さや困難さを軽減する。
- ▶ ソースコードを自由に変更し、ソフトウェアの改善や、ニーズに合わせたカスタマイズを行う。

## 4 コスト削減とベンダーロックインの回避

一部のプロプライエタリー・ソフトウェア企業は、意図的に顧客を自分たちのプラットフォームから抜け出せないようにしています。また、複雑な環境下で複数ベンダーの相互運用が難しいケースなどでも、気付かないうちにベンダーロックインに陥っている可能性があります。いずれの場合も、オープンソースを標準採用することで、大切なデータやアプリケーション、そしてコスト管理を、他社に依存せずに、自社でコントロールできるようになります。

- ▶ オープンソース・ソフトウェアとコンテナ管理を採用する。そして、IBM Cloud、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft Azure、Google Cloud など、好みにあったパブリッククラウド・プロバイダーを利用する。
- ▶ プロプライエタリーなベンダーに依存する必要がない、オープンソースを採用することで、任意のベンダーと連携する（もしくは連携しない）ことを、自由に決定できる環境にする。
- ▶ ベンダーロックインで搾取されるソフトウェアライセンスとサポート料金、アップグレードコストから、自社を解放する。



### RED HAT について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、新規および既存 IT アプリケーションの統合、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、Red Hat が提供する業界トップレベルのオペレーティングシステムへの標準化、複雑な環境の自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、Fortune 500 企業に信頼されるアドバイザーです。クラウドプロバイダー、システムインテグレーター、アプリケーションベンダー、お客様、オープンソース・コミュニティの戦略的パートナーとして、Red Hat はデジタル化が進む将来に備える企業を支援します。

## 5 手厚いサポートと最新ソフトウェアへの即時アクセス

オープンソース開発には多くの利点がありますが、中堅企業は、商業的サポート付きのオープンソース・ソフトウェアを使用することでさらにメリットを得ることができます。たとえば、Red Hat® サブスクリプションでは、次のことができます。

- ▶ サポートされているバージョンの Red Hat ソフトウェアをダウンロードできます。
- ▶ 拡張し続ける、Red Hatの豊富なオンライン・ナレッジベースに自由にアクセスできます。
- ▶ Red Hat ソフトウェアを使用するためのサポート、トレーニング、エキスパートによるアドバイスをいつでも受けることができます。
- ▶ Red Hat がソフトウェアを更新すると、すぐに最新版にアクセスし、利用開始できます。

### e ブックを読む

イノベーションを加速し、セキュリティを向上させ、オープンソースで IT インフラストラクチャをモダナイズする方法については、[e ブックをご一読ください](#)。

### セールsteamに問い合わせる

中堅組織向けのソリューションについて Red Hat のセールス担当者へのご連絡をご希望の場合は、[こちらからお問い合わせください](#)。



fb.com/RedHatJapan  
twitter.com/RedHatJapan  
linkedin.com/company/red-hat

**アジア太平洋**  
+65 6490 4200  
apac@redhat.com

**オーストラリア**  
1800 733 428

**インド**  
+91 22 3987 8888

**インドネシア**  
001 803 440 224

**日本**  
0120 266 086  
03 5798 8510

**韓国**  
080 708 0880

**マレーシア**  
1800 812 678

**ニュージーランド**  
0800 450 503

**シンガポール**  
800 448 1430

**中国**  
800 810 2100

**香港**  
800 901 222

**台湾**  
0800 666 052